

2010 年度入学試験 「出題傾向と対策」

算数（一般入試用）

出題の意図やねらい（全体的な傾向など）

小学校で学ぶ基本的な内容を、きちんと理解しているかどうかを確認するための問題を出題します。

例えば、計算のルールがわかっているか、単位換算ができるか、時間・道のり・速さの関係、平均点、仕事算、割合などを理解し、答えを導くことができるかどうかを確認します。

中学校で学ぶ数学は、小学校で学んだ算数を理解できてはじめて定着するものです。

大問題ごとの紹介（単元・レベル・小問数など）

【大問 1 計算問題】

計算のルールの確認と単位換算ができるかどうかを問います。

問題数は 8～10 題で、ほとんどは基本的なレベルです。特に分数の計算、小数の計算を必ず出題します。

【大問 2 一行問題】

小学校で学ぶ、時間・道のり・速さの関係、割合の計算、などの文章問題を出題します。

問題数は 8～10 題で、基本的なレベルが中心になります。図形の問題である面積や体積などの問題も含まれます。

【大問 3 以降】

大問 2 の一行問題をさらに発展させた問題になります。例年、3 問が出題され、そのうちの 1 問は必ず図形の問題になります。文章を読み、条件などを読み取らせる問題や、誘導問題を出題します。レベル的には基本問題から標準問題になります。特に大問 1 と大問 2 はケアレスミスは厳禁です。例年、正答率も高いため、わずかなミスが大きく響いてしまうこともあります。

文章問題は基本レベルですが、それなりの読解力も要求されますので、焦らず最後まで文章を読む必要があります。

ポイントとなる問題など

レベル的には基本問題から標準問題になります。特に大問 1 と大問 2 は、ケアレスミスは厳禁です。例年、正答率も高いため、わずかなミスが大きく響いてしまうこともあります。文章問題は基本レベルですが、それなりの読解力も要求されますので、焦らず最後まで文章を読む必要があります。

受験生へのメッセージ

本校の解答用紙は答えのみを書く形式ですが、計算の練習時には、途中式をきちんと書く習慣をつけてください。正解か不正解かだけを見るのではなく、不正解の場合、どこで間違えてしまったのかを確認し、同じミスを繰り返さないようにすることが大切です。また、文章問題でもそうですが、丁寧に書き出したり、図を書いたりすることがとても重要です。